

特集 (多因子性疾患の遺
伝解析と臨床応用)

公開シンポジウム 多因子性疾患の遺伝解析と臨床応用

江見 充¹⁾ 太田 成男²⁾

日本医科大学老人病研究所分子生物学部門¹⁾・同生化学部門²⁾

Genetic analysis and clinical application in polygenic diseases

Mitsure Emi¹⁾ and Shigeo Ohta²⁾

¹⁾Department of Molecular Biology and ²⁾Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School

人口高齢化とともに急増している本態性高血圧性、骨粗鬆症、老年期痴呆症、糖尿病、高脂血症、悪性腫瘍などの主要な多因子性疾患の発症には環境因子だけでなく、遺伝要因も深く関係することが明らかになりつつある。現在、ヒトゲノム計画が急速に展開しており、複合的な機序を持つ多因子性疾患の研究も今後急速に発展することが予測される。多因子性疾患の遺伝要因の解明には、疾患関連性解析、罹患同胞対法、家系連鎖解析、連鎖不平衡解析など、分子生物学、ゲノム情報科学、疫学、社会医学、臨床医学の幅広い国内外の研究機関との共同研究の推進が必要である。

このような状況のもとで多因子性疾患の研究の発展に一層寄与することを目指し、現在、本学では、老人病研究所を中核拠点として、文部省学術フロンティア推進事業「多因子性疾患の遺伝解析」の共同研究が進行している。

第 9 回医学会公開シンポジウムでは、この共同研究

の中から、骨粗鬆症とホルモン受容体遺伝子の関連、若年性 II 型糖尿病における転写遺伝子異常、拡張型心筋症、心筋梗塞への遺伝因子の関与、びまん性汎細気管支炎における民俗差や HLA 遺伝子型の関与、老人性痴呆とアポ E、ミトコンドリア異常、本態性高血圧症へのアンギオテンシノゲン多型の関与、乳癌、甲状腺癌、肝癌における遺伝子異常と術後予後診断への応用など、幅広い分野について遺伝解析からその臨床応用まで含めて学内外のトップ研究者に講演していただいた。いずれの講演もご自身の研究成果に基づいた研究最前線の話題であったが大変わかりやすい内容であった。

興味深い話題を提供していただいたシンポジストの先生方、活発な質疑により会を実り多いものにして下さったフロアの先生方、また、この機会を与えていただいた早川会長をはじめ会員の皆様にあらためて御礼申し上げます。